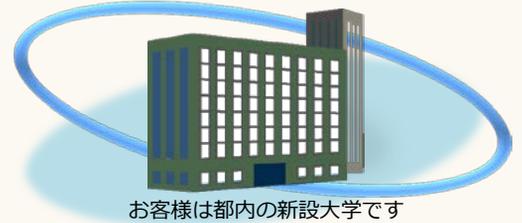


ICTインフラ構築と大学運営に不可欠な 複数APのノンストップ運用を実現！

学校インフラ新規構築のポイント

新たなキャンパスを開設するお客様の新規構築ポイントは「止まらないシステム」
導入・運用管理コストの最小化を考慮しつつ、高可用性・高信頼性のネットワークインフラ・システムの構築を行いました。



お客様は都内の新設大学です

導入システムの概要

■ブレードサーバ

富士通:PRIMERGY BX920

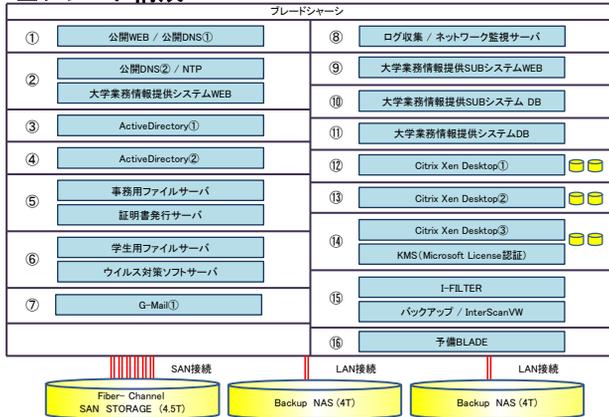


■仮想化

VMware vSphere Enterprise + vCenter



■ブレード構成



ネットワーク構成ポイント

冗長化構成 (装置)

- ファイアウォール (HA構成による冗長化)
- コアL3スイッチ (VRRPによる冗長化)
- 下記のLAN配線の二重化を生かし、正常時は2Gの幹線LANを構築

冗長化構成 (LAN配線)

- コアL3スイッチ-各棟メインスイッチ間の光ケーブル線の冗長化
- 各棟メインスイッチ-各フロアスイッチ間のUTPケーブル線の冗長化

ブレードサーバ構成ポイント

可用性 (耐障害性)

- ブレードサーバとVMware ESXサーバを組み合わせることでサーバ機の障害に対して迅速に復旧する仕組みを構築

省電力・省スペース

- サーバを仮想化することで、システム全体のサーバ台数を低減
- サーバ設置体積低減による、サーバラックの有効活用

拡張性

- VMware ESXサーバにより、ゲストOS (仮想サーバ) を容易に立ち上げる事ができ、サービスパックの検証や、新しいサーバソフトの試用など柔軟運用が可能

仮想化ポイント

VMware ESXサーバ

- 現在の仮想化サーバの技術の中で、最も安定した仕組みのVMwareを採用

物理サーバの配分

- 将来の負荷増化への対応を考慮、余裕ある物理サーバの配分を最適化

導入の成果

- ブレードサーバと仮想化技術による共通基盤を構築し、教育・研究系と事務系のシステムを統合
- サーバ台数の削減、省スペース化を実現、パッケージの導入により業務を標準化
- 学全体で運用管理コストの削減、システムの安定化を実現